令和6年度 あしたのまち・くらしづくり活動賞　総務大臣賞受賞

学生と創る子育てしやすい街づくり

福島県郡山市　一般社団法人CARNIVAL WORKS

貧困・虐待・生きづらさなど数えきれない困難が付きまとう現代において、これからの世代にひとつでも多くの笑顔を紡いでいくために、令和4年に学生と共に活動をスタートさせました。たくさんの人と人とが繋がりあい、子どもたちの笑顔あふれる未来を目指して、冒険心を掻き立てる様々なプロジェクトに私たちは取り組んでいます。

1．DRY FLOWER PROJECT

お花屋さんから提供を受けた廃棄寸前の花をアップサイクルし、ドライフラワーにて販売し、子ども支援にチャリティするプロジェクト。製作過程では、ひきこもりやひとり親家庭、高齢者の方々が携わり、販売プロデュースを高校生・大学生が行う。収益は子ども食堂などに寄付することで地域全体で子どもから高齢者までを支える循環型の地域を生みだしている。学生が中心となったこのようなサステナブルな取り組みは、連携・支援団体の増加を生み出しSNSでのシェア等、地域全体で子育てを支える気運を上昇させた。

DRY FLOWER PROJECT

2．無料塾FOUR'S STUDIO

ひとり親家庭を含め様々な家庭を対象に、教育格差をなくし、楽しみながら子どもたちが学ぶことを目的とした学生が主体となって運営する無料塾。場所はスーパーの2階で実施し、学生と地域と企業で子どもたちの教育を支える取り組み。

①居場所としての機能

子ども食堂型無料塾は居場所として機能し、ひとり親家庭はもちろんのこと、困難を

抱える恐れのある家庭に対し、間口を広く設定することで参加のハードルを下げ、いざという時に相談できる居場所としての機能を充実させることができた。

②教育の機会均等

無料塾は、様々な背景を抱えた家庭の子どもたちにも丁寧な教育を提供することで、教育の機会の均等化に貢献できた。これにより、社会的・経済的階層に関わらず、すべての子どもが能力を伸ばし、貧困の連鎖を食い止める一手を微力ではあるが示せていると考える。

③自己肯定感の向上

子どもたちが家庭と学校以外にも居場所を見つけることは、「これでいいんだ」という自己肯定感を育むことにもつながっていると考えられる。また無料塾が居場所になっているのは子どもだけではなく、保護者にとってもつながりの場になっており横のつながりで支え合いながら、専門相談員がいることで相談支援の場としても機能することができた。

無料塾 1

④高校生・大学生スタッフが運営する意義

子どもたちにとっても年齢の近い学生ボランティアスタッフの存在は大きく、また来たいと思えるきっかけになるのはもちろんのこと、将来こうなりたいと思える身近なロールモデルの存在があることは、子どもたちの生きる目標にもなっていた。学生にとっても、子どもたちの現状を知り課題を知りながら、スタッフとして地域や教育に貢献できることは次世代教育にしっかりと貢献できている。

無料塾 2

3. チャリティカフェ anneau café

1杯のチャリティコーヒーが子ども支援（寄付）につながり、高校生・大学生がデザイン・運営・販売まで行うチャリティカフェ anneau café。学生が日々発信し続けた instagram でも大きな反響を呼ぶことになり、たくさんの来場者に恵まれた。学生にとってもチャリティイベントは達成感が大きく、レイアウトやお客様への声掛けまで自分たちで考え実践していくことは自信にもつながった。また、学生自身が子育て、教育のことを改めて考える契機となり、これからの人生に

チャリティカフェ

大きな影響を与えるイベントとなった。

チャリティイベントには外国にルーツを持つ方、障がいをお持ちの方等、多様な人が訪れた。多様性を持つ人が集まり、誰もが受け入れられる社会的包摂性を持ったコミュニティスペース（居場所）としてanneau caféが機能したことは当初予定していなかった驚きであった。また、このような啓発活動、チャリティイベントを行うことは、まち行く人はもちろんのことSNSやメディアでも取り上げられることで、次年度以降の新たな取り組みに向けた繋がりが創出され、子育てを支える地域が益々促進されている状況にある。

チャリティカフェ

4. 食と対話で支える ひとり親サポートプログラム

無料塾や様々なイベント・地域連携でつながったひとり親家庭を中心に、毎月1回程度の食の支援と相談支援を実施。

本取り組みにより経済的及び精神的な困難に直面している（または直面しそうな）ひとり親家庭を多く支えることができた。

食材支援については、ひとり親家庭の困窮に対処するとともに、物価高による食費の負担軽減と相談支援の入り口として機能した。支援食材については、地域企業や個人と寄付や物的支援で連携し、地域全体で子育てを支える気運醸成にも寄与することができた。個人からの寄付物資や企業でのフードドライブ物資などにより余剰食品を捨てることなく回収し、それを必要とする家庭に配布することは食品ロスの削減にも大きく貢献したと考えられる。

相談支援としては、ひとり親家庭が抱える様々な課題に丁寧に対応することができた。心理的なサポート、育児や仕事との両立に関するアドバイス、法律相談、就労支援、住居に関する相談支援などを一時窓口として丁寧に対応しながらも、必要に応じて各関係機関（母子シェルターや児童家庭支援センター等）と連携しながら相談及び解決にあたった。

スイーツ販売時の様子

学生たちが子どもたちを取り巻く社会課題を自分事としてとらえ、失敗を恐れず、等身大のソーシャルアクションは地域全体に元気と笑顔を届けている。また学生たちの笑顔あふれる取り組みは企業・地域・学校のつながりを創出し、地域全体で子どもたちを支えるプラットフォームとなっている。全員がつながって、これからもしっかりと子どもたちの笑顔を生み出せるような街づくりを行っていきたい。

ひとりひとりの心躍るストーリーは世界を変えると信じて。

（一般社団法人CARNIVAL WORKS　代表理事　江藤大裕）